

8. 中国（地域別調査機関：公益社団法人中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連  (中国)	良く なっている	-	-	-	
	やや良く なっている	一般小売店〔食品〕（経営者）	来客数の動き	・7月中旬にプレミアム付商品券が市から発売され、売上増につながっている。	
		一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	来客数の動き	・幅広い年代において来店客数が増加している。	
		スーパー（店長）	単価の動き	・1人当たりの買上点数が徐々にではあるが、3か月前に比べて上がっている。	
		スーパー（店長）	来客数の動き	・3か月前に比べて客数が若干増加している。前年比で言えば、4月は前年の101%であったが、7月は103%となり、月を経るごとに数字が上昇している。	
		スーパー（店長）	販売量の動き	・販売量はやや良くなっている。天候に恵まれ気温が上昇すれば、景気はもっと良くなる。	
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・ここ2～3か月、売上は順調に伸びている。土用のうしの日にうなぎを販売したが、売上は前年比で3割増であった。前年に比べて天候が悪かったにもかかわらず売上が増加したことから考えると、景気は良い方向に向かっている。	
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・気温上昇とともに中食や飲料の動向が好調である。来客数も徐々にではあるが、回復傾向にある。	
		コンビニ（副地域ブロック長）	お客様の様子	・客数は前月までは前年実績以下であったが、7月は前年並みで推移している。	
		コンビニ（支店長）	来客数の動き	・客数が増加している。	
		乗用車販売店（営業担当）	お客様の様子	・ボーナスが支給され、来店客も多くなっている。	
		その他専門店〔ファッション雑貨〕（従業員）	販売量の動き	・プレミアム付商品券が発売され、わずかではあるが販売量が増加している。	
		一般レストラン（店長）	単価の動き	・7月は台風の影響により客数は減少しているが、客単価が上昇して、売上は前年を超えている。また高単価のコースが前年に比べて多く出る傾向にある。	
		一般レストラン（外食事業担当）	来客数の動き	・客数の動きをみると5月は前年の97%、6月は99%、7月は中途であるが108%であり、良い流れになっている。ランチの客数は前年の92%と伸び悩んでいるが、夜の客数が伸びている。また客単価は前年の105%で、金額としては150～190円程度伸びている。	
		その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕（店長）	販売量の動き	・1人当たりの販売点数が増えている。	
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・ボーナスが出た関係もあり、各ショップでも客が増えている。	
		タクシー運転手	お客様の様子	・ゴールデンウィーク中の落ち込みからは回復した。ただジャンボタクシーの動きが悪く、全体売上は前年の101～102%で推移している。	
		通信会社（工事担当）	お客様の様子	・客の様子をみると、景気はやや良くなっている。	
		テーマパーク（業務担当）	来客数の動き	・夏休みに入り、週末だけでなく平日の来園者も増え始めている。	
		住宅販売会社（営業担当）	お客様の様子	・住宅購入を検討する客からの問い合わせ件数が多少増えてきた。	
		住宅販売会社（営業担当）	販売量の動き	・梅雨が明けたため、外装工事などの受注が増えてきている。	
		変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・猛暑のためか、いつもより商店街を歩く人が少なく、来店客も減少している。また客には来たついでに買おうというような買い急ぐ様子は見えず、必要以上のものは買わない。
			商店街（理事）	来客数の動き	・この時期は商店街においてもバーゲンセールの特典である。客もバーゲンセールに慣れてしまいマンネリ感を持つのか、セールを始めても客の購買意欲が極端に上がることはない。
			商店街（代表者）	来客数の動き	・朝、昼、夕方を通して、以前と客数があまり変わらない。
			商店街（代表者）	販売量の動き	・出雲大社の大遷宮以降の流れで、観光客はますます来店している。ただ収入増加が物価上昇に追いつかないためか、地元客の購買意欲が上がらない。

商店街（代表者）	お客様の様子	・7月は商店街の各店ともバーゲンセールに入り、ある程度の高額品を扱う店は好調な売上を確保している。景気は少し上向きと思われる。
商店街（代表者）	お客様の様子	・依然として、店頭では買い控える客が目立つ。
一般小売店〔靴〕（経営者）	お客様の様子	・日常品の買物についても以前ほど客の勢いがみられないと、最近よく感じる。
一般小売店〔茶〕（経営者）	お客様の様子	・7月はわが商店街の夏祭り、一年で一番にぎわう時期である。おかげで晴天に恵まれ、久々に大いににぎわった。このようなにぎわいが毎月あると嬉しい。
一般小売店〔印章〕（経営者）	販売量の動き	・プレミアム付商品券が今月発売されたが、すぐに完売したようである。大量に購入した人も多く、一部の市民が恩恵を受ける形となっているので、景気への好影響は小さい。
百貨店（経理担当）	販売量の動き	・7月の売上は前年実績の97%の見込みである。クリアランスセールがやや不調であったことや、お中元ギフトが今のところ前年比でマイナスである影響が出ている。
百貨店（営業担当）	販売量の動き	・前年同月比で売上は前年の78%、来客数は76%と、依然として低迷が続いている。前年実績を上回っている店舗は約25%あるが、ほとんどの店はヘアサロン、エステやまつ毛エクステなどのサービス系である。アパレルは依然として低迷しており、新規店舗を誘致して館全体の魅力アップを実行しないと、このままの状態が続きかねない。
百貨店（営業担当）	販売量の動き	・前年に続いて、クリアランスセールが今一つ盛り上がらない。価格を下げてでもまとめ買いする客は少なく、客は慎重に品定めをしている。また地方は都会と異なり、インバウンド客の売上も小さい。
百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・夏のセールが本格的にスタートした。上旬は天候不順も加わり、低調に推移した。従来であれば、再値下げした中旬には盛り上がるはずであるが、今年はミセス向けを中心に前年実績を下回る状況である。価格を下げてでも購買喚起につながらず、消費者のシビアな購買姿勢が継続している。
百貨店（売場担当）	お客様の様子	・7月に入りクリアランスセールをスタートしたが、衣料品についてはセールになっても依然として客の買い方は慎重なままである。梅雨明け以降、UV商品がようやく上向いているが、全体売上は前年をやや下回る見込みである。
百貨店（購買担当）	お客様の様子	・天候に左右されながら、売上は厳しい状況が続いている。プレミアム付商品券が7月20日に発売された以降、客の購買意欲が高まったせい、売上が顕著に増加している。客に特典がある仕掛けをすれば客の購買意欲は高まることを、あらためて実感した。
スーパー（総務担当）	販売量の動き	・客数と単価はともに前年並みで推移している。
スーパー（業務開発担当）	販売量の動き	・販売価格の値上げとプレミアム付商品券の効果で、売上は前年比で6ポイント程度増加している。ただ客数や販売点数は前年並みである。
スーパー（財務担当）	来客数の動き	・前年同時期には消費税増税の影響で客数が減っていたため、今年4～6月の客数は前年に比較して増加しているが、その要因を除けば客数の動きに変化はみられない。
スーパー（管理担当）	お客様の様子	・前月の状況からあまり変化は見られず、客単価はキープしているが客数が伸びない。
衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・景気が良くなっている感じは受けない。
家電量販店（店長）	販売量の動き	・暑さが厳しい中、エアコンに期待していたが、売上は思うほど伸びない。
家電量販店（販売担当）	販売量の動き	・エアコンが動かない。
家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・来客数が3か月前と比べて変化せず、それに伴って売上も変わらない。
乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・7月の販売状況は前年の85%と、依然として厳しい。特に軽自動車の販売が厳しい状況である。
乗用車販売店（総務担当）	お客様の様子	・先行きには不透明感がまだ根強く、仮に客に欲しい車があっても商談には発展しにくい。

自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・今年度は一昨年度と同じくらいで売上が進ちょくしている。確かに前年の落ち込みと比較すれば良く見えるが、それ以前に戻っただけで、実際には少しも良くなっていない。
その他専門店〔時計〕（経営者）	単価の動き	・高額品の販売がなかなか進まない。
その他専門店〔布地〕（経営者）	お客様の様子	・地方では物価が上昇するにもかかわらず給料や年金が増えない人が多く、客に元気がみられない。景気を押し上げる材料は見当たらない。
その他小売〔ショッピングセンター〕（運営担当）	お客様の様子	・近隣に大型ショッピングセンターが開店した直後は一時的に影響を受けたが、今は来客動向は大きくは変化していない。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・予約状況を見ると、平日の昼時間帯が前年に比べてあまり良くない。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・景気が良くなる気配を感じる。ただ来客数等の数字を見ると、結果的には3か月前と同じである。
スナック（経営者）	来客数の動き	・ボーナスが増額になったりと、マスコミの報道では景気が回復しているように思われるが、地方の飲食関係はまだまだ回復傾向にはない。
観光型ホテル（支配人）	販売量の動き	・宿泊予約は堅調に推移しているが、宴会予約が低迷している。
観光型ホテル（宿泊担当）	単価の動き	・商品をネット上で販売すると、安い商品は売れるが高額なものは売れない。
都市型ホテル（企画担当）	来客数の動き	・宿泊に関しては稼働率が上昇傾向にあり、平日のビジネスマンなどの動きは活発である。夏休みシーズンの個人客の先行受注も好調で、プレミアム付旅行券の影響が出ている可能性がある。レストラン客数の伸びは鈍化している。
都市型ホテル（企画担当）	来客数の動き	・相変わらず海外からの客は好調に推移している。宴席では大型案件は減少しているが、小型宴席でカバーしている。レストランはランチ客は微増であるが、ディナー客が落ち込み、低調である。
旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・不況があまり長く続き過ぎたため客も我慢の限界なのか、グループ客には流れを感じないが、個人客は良い方向に向かっている。
旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・地方創生関連の交付金事業がスタートし、少しずつ効果が始まって国内旅行は好調である。また訪日外国人観光客も増加傾向で推移しているが、日本人の海外旅行は引き続き厳しい。
タクシー運転手	来客数の動き	・季節調整すれば、景気に変化はない。
通信会社（企画担当）	お客様の様子	・新サービスへの関心は1年前と比較すると良いと言えるが、1四半期前との比較ではおおむね変わらない。
通信会社（広報担当）	販売量の動き	・商戦期ではあるが、販売数があまり増えない。客はより良いものを求める姿勢ではなく、より安いものを求めて来店している。
通信会社（総務担当）	販売量の動き	・新規加入契約数が落ち着いてきている。
テーマパーク（管理担当）	来客数の動き	・入館者数や商品販売高等には前年同月比で大きな変動がない。
テーマパーク（営業担当）	来客数の動き	・バス料金が改正されて以降ずっと団体客が減少したままであり、回復する兆しも見えない。
ゴルフ場（営業担当）	お客様の様子	・天候に左右されるため、一概には言えないが予約状況は例年どおりである。
美容室（経営者）	競争相手の様子	・同業者と話しても、景気は悪いままであり、景気が良くなる方向に向かっているとは思えない。
美容室（経営者）	単価の動き	・客にはボーナスが支給された人もあるが、当業界まで金が回ってくるような状況にはない。
設計事務所（経営者）	お客様の様子	・客は消費税率再引上げ前であるという意識は持っているが、行動に移すにはまだ慎重である。
設計事務所（経営者）	お客様の様子	・客に購買意欲があまりない。単価ダウンに対する要望は相変わらず多い。
設計事務所（経営者）	販売量の動き	・年度が変わり、官民とも動きが出るかと思っていたが、新築・改修工事とも思うようには仕事がこない。
設計事務所（経営者）	お客様の様子	・戸建て住宅の引き合いが前年同時期に比べて少なくなった。
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・依然として慎重に判断する客が非常に多い。

	住宅販売会社 (営業担当)	お客様の様子	・客の動きが少ない。猛暑の影響もあるので、引き続き客の足は鈍る。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	単価の動き	・7月に入り、例年どおりバーゲンセールを開催しているが、売上は非常に悪い。客の財布のひもは固いという表現では不十分な感じであり、客のデフレマインドは解消されていない。
	一般小売店〔紙類〕(経営者)	お客様の様子	・地元客が日用品を買い控えているため、売上が下がっている。
	百貨店(営業担当)	販売量の動き	・夏のクリアランスセールのスタートが前年より遅くなり、今年の6月が厳しかった分、7月の売上には大きなプラスを想定していたが、前年実績前後の着地となりそうである。6月と7月の累計でも、前年を大きく下回る見込みである。
	百貨店(売場担当)	販売量の動き	・この時期の百貨店の2大イベントであるお中元セールと夏物セールがともに苦戦中である。来客数に対する買上率が前年から8ポイント程度落ちており、特に食品と婦人服が厳しい。
	百貨店(売場担当)	販売量の動き	・7月は絵画、宝飾品やブランド品が売れず、厳しかった。
	スーパー(販売担当)	お客様の様子	・季節性を伴わない定番と呼ばれる商品は比較的順調に推移している。ただ例年この時期に発生するボーナス需要による高額商品の購入やまとめ買いをする客は少なく、厳しい状況が続いている。
	衣料品専門店(経営者)	お客様の様子	・6～7月初めまで涼しかったせいか、夏物の洋服の売行きが悪かった。呉服の方も原材料の値上がりで一般的に仕入値が上がっているが、販売価格はなかなか上げられないため苦しい。
	乗用車販売店(営業担当)	販売量の動き	・販売量が前年より落ちてきており、来店者も増加しない。
	住関連専門店(営業担当)	来客数の動き	・月曜日から土曜日については、客数の減少が著しい。また来店しても商品を見て回るだけで、なかなか購入に結び付かない。
	その他専門店〔和菓子〕(経営者)	販売量の動き	・来客数は減少していないが、単価の低下が大きい。
	その他小売〔ショッピングセンター〕(所長)	来客数の動き	・飲食店の客数が前年に比較して5～8%落ちており、外食に対する客の節約意識が感じられる。
	一般レストラン(経営者)	お客様の様子	・地方の中小企業等では、ボーナスが出ている企業は少ない。家計の消費動向は必要なものに集中している。外食では傾向的にデフレが続いている。
競艇場(職員)	販売量の動き	・3月前の4月にはG3の女子レースが開催され、かなりの売上があったが、7月はそういうレースがなかった。	
悪くなっている	商店街(代表者)	販売量の動き	・当地の商店街では、この7月末で閉店する店が3店舗ある。3店舗とも長く商店街を引っ張ってくれた地元の人経営である。1店舗の経営者は60代後半で年齢的なこともあると思うが、他の2店舗は50代前半で経営者として油の乗り切った時期である。またその2名の経営者は商店街の副理事長も務めてくれており、非常に残念である。
	スーパー(店長)	来客数の動き	・肉、魚や酒を購入する客が特に少なくなっている。
	乗用車販売店(店長)	お客様の様子	・販売量の落ち込みもちろん気になるが、新型車を発売したにもかかわらず客は今では買う時期でない判断するのか、客の関心が薄く心配である。
	その他専門店〔海産物〕(経営者)	来客数の動き	・相変わらず観光客が少ない。また夏休み中は個人客が主体になるが、個人客も例年より少ない。
企業動向関連 (中国)	輸送用機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・自動車用部品を製造しているが、増産対応で非常に忙しい。
	非鉄金属製造業(業務担当)	受注量や販売量の動き	・事業分野によっては悪いところもあり、すべての分野で良くなっているわけではない。
	通信業(営業企画担当)	取引先の様子	・円安とともに世界遺産効果から、外国人観光客が増加している。自治体を中心に観光客向けのITソリューションに関する問い合わせが増加しており、新たな商流が発生している。
	広告代理店(営業担当)	受注量や販売量の動き	・総合的に他業種からの受注が増えており、販売促進活動が盛んになっている。

変わらない	農林水産業（従業者）	それ以外	・ 6月を3か月前の3月と比較すると、水揚げ量は940tの減少、水揚げ金額は2億800万円の減少であった。水揚げ量と水揚げ金額の減少理由は沖合底引き漁や大中型巻き網漁の減少である。6月単月の前年比は、水揚げ量が200tの増加で前年の123%、水揚げ金額が8,800万円の減少で前年の67%であった。水揚げ量の増加理由は沖合底引き漁やイカ釣り漁の増加である。水揚げ金額の減少理由は大中型巻き網漁の減少である。	
	食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・ 4月に全体の生産計画を見直して数か月が経過したが、やっと受注量や販売量が落ち着いてきた。	
	木材木製品製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・ 消費税増税後の反動減はほぼ収束しているが、需要の安定感はまだ感じられない。	
	窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・ 鉄鋼業の減産の影響で生産は低水準のままであり、稼働も定時体制の部署が大半である。	
	鉄鋼業（総務担当）	取引先の様子	・ 客先の状況は先月に続き荷動きが低調で、在庫も高水準である。回復に期待感もあったが、まだ低位継続の様態である。	
	鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・ スポットで大口受注が入っているが、競合先の不良の穴埋めや円安等が理由であり、景気の大きな回復とは言い難い。	
	金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・ 受注量は過去3か月と比べて、同水準で推移している。	
	電気機械器具製造業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・ 受注量はほぼ確保できているが、適正利益の水準には届かない。今後については消費税率再引上げ後の受注確保が今から気かりである。	
	輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・ 主要客からの受注量は大きな修正もなく、順調である。	
	建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・ 来年2月までは受注済み物件及び予定物件で手一杯である。	
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・ 荷動き量は前年を上回る傾向となってきたが、まだ微増の状況である。景気自体には変化はなく、個人利用は前年割れで、大口荷主が当社の取扱量を支えている。	
	輸送業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・ 荷動きの様子にあまり変化はなく、おおむね堅調に推移している。	
	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・ 円安傾向もさることながら、安保法制やTPP交渉など、政治がやや混乱しており市場の活性化は乏しい。ただマイナンバー制度導入に関するシステム変更などで、一時的な需要の拡大が見込める。	
	金融業（自動車担当）	取引先の様子	・ 自動車メーカーの操業は土曜出勤を含む残業による高稼働が続き、部品メーカーの受注も高水準を維持している。	
	金融業（貸付担当）	取引先の様子	・ 取引先の様子から、身のまわりの景気については3か月前と比べて変わらない。4月ごろは消費税増税後の落ち込みから回復基調にあると感じていたが、7月になってもそれ程変化していない。	
不動産業（総務担当）	それ以外	・ 来客数と成約件数は、2～3か月前と変わらない。		
会計事務所（職員）	取引先の様子	・ 建設業や製造業はともに受注はあるが、人件費と材料費の値上がりにより思うように利益が上がらないジレンマを抱えている。また天候がはつきりしないせいで、小売業の売上が伸びていない。		
やや悪くなっている	化学工業（経営者）	取引先の様子	・ 中国経済の減速等の影響により、景気は全体的な盛り上がり欠けている。取引先は増産計画から一転して、減産に転じている。	
	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・ 工事の遅れなどの影響もあり、セメントの出荷が低調である。景気後退後に崩れた様々な仕組みが回復しておらず、内需拡大につながっていない。	
悪くなっている	その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・ 海外からの仕入価格が円安のため急騰したが、簡単にはコストに反映させられない。原価が大幅に上昇して企業努力では吸収しきれない。また生産はもともと中国生産が主力であったが、現在は中国内のコストアップでベトナムやカンボジア等に移ってきており、国内生産は苦しくなる一方である。	
雇用関連	良くなっている	求人情報誌制作会社（広告担当）	求人数の動き	・ 次年度に向けて、企業側の採用活動内容の決定が早い。新卒・中途ともに求人数は安定しており、若干増加傾向にある。

(中国)	やや良くなっている	新聞社 [ 求人広告 ] ( 担当者 )	雇用形態の様子	・従業員の多くをパートやアルバイトでまかなっていた事業所が、1人でも2人でも正社員にしなければ、パートさえ確保できないと意識するようになってきた。景気回復で従業員確保がじわじわと難しくなっている証左である。
		職業安定所 ( 所長 )	求人数の動き	・新規求人においては、食料品製造から複数の増員求人があった製造業が前年同月比で6割増となるなど、ほとんどの業種で増加している。求人全体でも2割増となり、増加傾向が続いている。
		職業安定所 ( 産業雇用情報担当 )	求人数の動き	・今年に入り減少傾向で推移していた新規求人数が増加に転じた。これに伴って月間有効求人数も増加した。
		民間職業紹介機関 ( 職員 )	求職者数の動き	・求職登録者数が減少傾向にあり、3か月前に比べて30%近く減少している。1人当たりの離職期間が短くなったのかどうかは分からないが、十分な受け皿があるため流動化が早いものと思われる。
		民間職業紹介機関 ( 人材紹介担当 )	求人数の動き	・企業の岡山支店開設や全国展開のチェーン店の出店などにより、求人が顕著に増えている。
	変わらない	人材派遣会社 ( 支社長 )	求職者数の動き	・当社だけでなく取引先企業も含めて、底堅い景気に支えられ、求職者の確保に苦労している。今後はこの状況に加えて生産年齢人口の減少という要因も大きく絡まってくるため、労働市場と景気の相関関係を単純に捉えることが難しくなってくる。
		人材派遣会社 ( 経営企画担当 )	求人数の動き	・求職者・求人の動きに大きな変化は感じられない。事務系は堅調で、販売・医療の求人も好調である。今後は改正労働者派遣法の影響を想定して、常に求人と求職者の距離感をしっかり見極め観察していく。
		人材派遣会社 ( 支店長 )	求職者数の動き	・6月末に少し求職者に動きが出ているが、求人数よりも求職者が少ない状況が続いている。Webや雑誌等の募集媒体での反応も薄れており、求人と求職者とのマッチングまでに至っていない。
		新聞社 [ 求人広告 ] ( 担当者 )	周辺企業の様子	・消費税増税後に大きく減速した前年4～6月と比較しても、自動車、住宅不動産、流通や外食産業など、個人消費が主となる業界で景気回復が進んでいない。大都市圏の景況とは違って、地方では長期停滞状況になっている。
		職業安定所 ( 産業雇用情報担当 )	求職者数の動き	・新規求職者数は3か月前に比べて10.3%減少しているが、3か月前は年度末という事情で増加したものであり、雇用環境に変化は見られない。
	職業安定所 ( 雇用開発担当 )	求人数の動き	・新規求人は前年と比較して若干減少しているが、引き続き高水準にある。一方、新規求職者は前年比で減少している。	
	学校 [ 短期大学 ] ( 学生支援担当 )	求人数の動き	・景気は良くもなっていないし、悪くもなっていない。	
	やや悪くなっている	-	-	-
	悪くなっている	-	-	-